

## 概念検索による特許情報の活用法 その3

六車正道 (むぐるま まさみち：㈱日立製作所 知的財産権本部 特許主幹，技術士)

## 要約

特許情報の概念検索による利用は、研究開発者が簡単に利用できるものであるために、アイデア発想支援ツールとして有益であることを、実証的に示した。また、発明の保護にも予備調査的に役立つ。さらに、類似の製品をもっている企業を探し特許権の活用を計画することにも役立つ。なお、概念検索の利用は簡単であるが、その簡単さを理解し、利用してもらうには説明会を開催することが重要である。

## 1. はじめに

インターネットの進展とデータベースの充実により検索手段が一般技術者でも利用できるようになり、紙資料の時代に比べるとかなり容易に調査・検索できるようになってきた。しかし、10年間で約500万件も発行される特許情報から、各技術者の必要な情報を迅速に低コストでピックアップすることは容易なことではない。一方、研究開発は内容の充実やコスト低減、期間短縮が求められている。

概念検索とは、技術的な説明文やキーワードの羅列を質問文として与え、内容的なヒットの可能性の高い順に回答を得ることができるものである。実際の利用にあたっては概念検索を数回繰り返し、また希望するならば検索式と合わせて検索し、抄録は1秒以下で迅速表示させ、明細書は数秒で表示させることができ、概ね妥当な再現率を得ることができる。このようなシステムが実用化されつつある。

本稿では、このような状況にお

いて概念検索をどのように利用すべきか、実例を交えて紹介する。

## 2. 特許情報の役割と概念検索の特徴

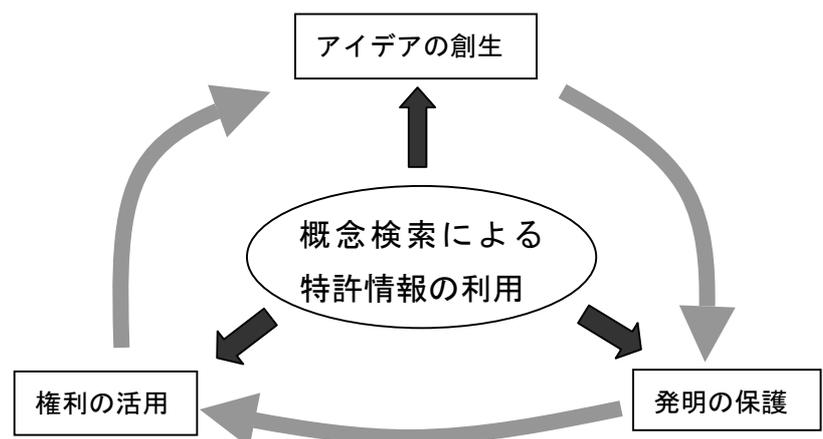
## (1) 特許情報の役割

特許制度は、新規発明を秘密にせず公開することの代償として、一定期間の独占権が与えられるものである。特許情報は、特許制度の目標である産業の発展に資するため、発明の周知のために整備されたものであり、先行技術の習得手段として優れた情報源である。

特許は急いで出願され、特許情報により出願から1.5年ですべて公開される。特許情報には、記載に秘密がなく、平均的な技術者が理解できるように記載され、ニーズとの関係や関連技術との差異も述べられ、データベースとして完璧な整備がなされているなど、他の情報源にない優れた面がある。

図1は、特許情報の果たすべき役割りのイメージ図である。特許情報の利用は、次のアイデアの創生を促し、またその発明の権利化や他社権利の侵害防止など発明の保護に役立ち、さらに特許権の活用のための情報源としても役立つ

図1 特許情報活用のイメージ



ことが期待されている。

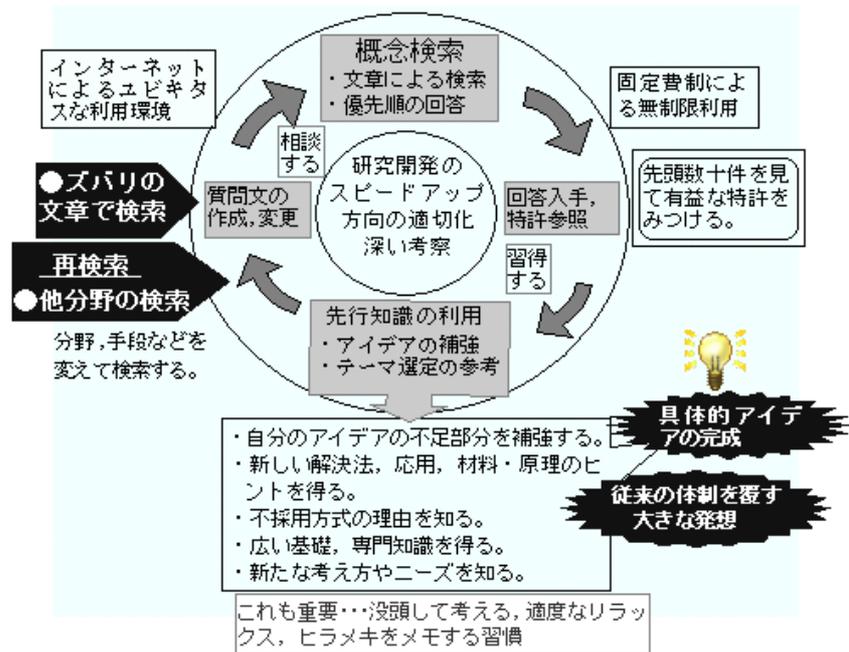
特許情報を利用するにはコンピュータを使った検索が広く利用されているが、検索式の作成は容易でなく検索の専門家でないと使い難く、結果としてコストの高いものであった。このため、どのように役立つか明確でないアイデア発想支援としての利用は限定的であった。ところが、概念検索は簡単な質問文で短時間に類似特許を探せるため低コストであり、研究開発者や特定技術を対象とする特許技術者など情報のエンドユーザ自身が利用できることで細やかな変更にも対応できる。概念検索が可能になったことで、特許情報の幅広い利用が実現しつつある。

## (2) 概念検索システムはエンドユーザに好適

概念検索では、対象技術の説明文がそのまま質問文になるので、利用法の習得はほとんど不要である。対象技術の知識の豊富なエンドユーザにおいては、技術的な説明文の作成は容易である。また、情報を必要としている本人が利用できることで、調査すべき対象を間違えて理解するようなことも発生しない。これに対し、専門サーチャは、依頼された技術内容の理解に時間がかかり、1, 2時間後に内容を理解した頃には、エンドユーザの概念検索は終わっていることがありうる。このように、概念検索はエンドユーザの利用に適している。

## (3) 概念検索は専門サーチャにも有益

図2 概念検索によるアイデア発想支援のイメージ図



専門サーチャは、広い技術分野を対象にすることが多い。不慣れた技術分野の調査・検索にあたっては、該当分野の特許の状況、また IPC（国際特許分類）の付与の状況などの概略を知るために、予備的な検索を行うことが多い。そのような目的のために、依頼書の文章をそのまま使った概念検索は有益である。また、検索や手めくりによる調査の終了後には、該当技術の理解が進んでいるのでその時点で概念検索を行なうことも有益である。なお、専門サーチャにおいては、検索式との組み合わせなどさらに高度なテクニックを利用することでいっそう再現率を高めることが期待できる。

## 3. 概念検索によるアイデア発想支援

特許情報には先行技術が網羅されており、これを適切に利用できれば、自社の研究開発に大きく貢献できるはずである。

### (1) アイデア発想支援としての利用法

図2は、概念検索をアイデア発想支援ツールとして利用するイメージ図である。まず、欲しい技術を示すズバリの文章で、「相談する」つもりで概念検索を行う。上位数十件を見て類似内容の特許があったら「習得する」つもりで利用し、自分のアイデアの直接的な補強や、新しい専門知識の吸収に役立てる。新しい表現などが

分かったらそれを使うなどにより、さらに2、3回、概念検索を行う。このとき、同じ技術を違う表現で検索するだけでなく、意図的に他の分野を探すことも有益である。

表1は、他分野を探すことを含めた概念検索のやり方を示す。他分野の検索とは、製品や技術の分野、目的、解決手段などの要素の一部を省いて類似情報を探すことである。広い範囲の関連特許を見ることで、別の角度から刺激になることを期待している。

表2は、「映像の明るさや音量をプログラムで制御するテレビジョン受像機の消費電力低減」をその課題文そのもので概念検索した結果である。第1位に、非常に近い内容のものが出ている。これら先行特許を読むと、技術の詳細だけでなく、例えば次のように役立つ情報が得られる。

- ・自分のアイデアの不足部分分かる。
- ・気付いていなかったニーズや課題が分かる。
- ・それらの一応の対策案が分かる。
- ・新しい材料、技術、応用、原理が分かる。

表1 アイデア発想支援に適した概念検索のやり方

<p>●<b>同じ分野の検索</b>・・・同じ内容の特許を探す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探したい技術の説明文で検索する。 例 テレビの映像・音量をプログラムで制御する消費電力低減</li> <li>・課題の文章で検索する。</li> <li>・異なる表現の文章で検索する。</li> </ul>
<p>●<b>他分野の検索</b>・・・意図的に異なる分野、手段を探す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品分野を省いた文章で検索する。 例 映像・音量をプログラムで制御する消費電力低減</li> <li>・解決手段を省いた文章で検索する。 例 テレビの消費電力低減</li> <li>・手段も分野も省いた目的だけの文章で検索する。 例 消費電力低減</li> <li>・異なる分野に変えた文章で検索する。 例 劇場、シアターの映像・音量をプログラムで制御する消費電力低減</li> </ul>

表2 「映像の明るさや音量をプログラムで制御するテレビジョン受像機の消費電力低減」による概念検索  
先行特許により類似技術の詳細を知るだけでなく、新たな課題などを知ることができる。

<p>1 3948 <del>特開 2000-115***</del> テレビジョン受像機</p> <p>2 3484 特開平 07-212666 消費電力レベル表示装置</p> <p>3 3320 特開 2002-354373 テレビジョン受像機</p> <p>4 3108 特開平 06-038139 コントロールキー制御装置</p> <p>5 2901 特開平 06-062346 テレビジョン受像機</p> <p>6 2893 特開平 05-260411 テレビジョン受像機</p> <p>7 2835 特開 2002-158938 テレビジョン受像機</p> <p>8 2830 特開平 08-331478 テレビジョン受像機</p> <p>9 2776 特開平 06-038126 テレビジョン受像機</p>	<p>特開 2000-115*** 6 頁 3 クレーム H04N 5/44;5/57;5/60 テレビジョン受像機</p> <p>【要約】 予めユーザの使用環境や一日あるいは年間を通じた使用環境に応じた消費電力低減化のための複数の設定プログラムを格納し且つ選択実行可能とすることで、消費電力の低減化を図る。</p>
--	--

表3 「テレビジョン受像機の消費電力低減」による概念検索  
テレビの様々な消費電力の方法を知り、参考にすることができる。

<p>1 3094 特開平 07-212666 消費電力レベル表示装置</p> <p>2 2400 <del>特開平 05-207***</del> テレビジョン受像機</p> <p>3 2261 特開 2000-115649 テレビジョン受像機</p> <p>4 2255 特開平 05-336474 テレビジョン受像機の消費</p> <p>5 2254 特開平 08-022245 テレビジョン受像機</p> <p>6 2208 特開平 05-145898 高品位テレビジョン受像</p> <p>7 2148 特開平 11-355752 デジタル放送受信機内蔵</p> <p>8 2144 特開 2000-324422 テレビジョン受像機</p> <p>9 2120 特開平 07-023307 テレビジョン受像器</p>	<p>特開平 5-207*** 7 頁 2 クレーム H04N 7/00 A 9070-5C;5/44 Z 7337-5C テレビジョン受像機</p> <p>【要約】・・・テレビジョン受像機の主電源をオンさせず、録画に必要なBSチューナや帯域圧縮復元用デコーダ等の機構のみを作動させ、少ない消費電力にて・・・</p>
---	--

表4 「消費電力低減」による概念検索

様々な製品分野での消費電力削減の方法を知り、思考を刺激することができる。

<p>1 1516 特開平 07-212666 消費電力レベル表示装置</p> <p>2 1505 <del>特開平 10-268***</del> 情報機器</p> <p>3 1416 特開平 05-122851 消費電力低減回路</p> <p>4 1412 特開平 08-139533 半導体集積回路装置</p> <p>5 1401 特開 2000-143582 消費電力低減装置</p> <p>6 1373 特開 2002-222031 情報処理装置および同装置</p> <p>7 1360 特開 2001-100857 無線機器の消費電力低減</p> <p>8 1359 特開平 08-223508 電源回路のスタンバイ消</p> <p>9 1334 特開 2000-274683 給湯器用リモコン装置の</p>	<p>特開平 10-268*** 4 頁 4 クレーム G06F 1/32;1/26;1/04 301 情報機器</p> <p>【要約】 汎用的な情報機器で消費電力最大時における省電力・・・消費されている消費電力が所定値を超えたとき・・・CPUの動作クロックレートを低下させる制御を行うように消費電力低減制御部を構成した</p>
--	--

表3は、具体的手段を省いて「テレビジョン受像機の消費電力低減」という質問文で概念検

索を行なった結果である。特定の回路を停止させるなど、趣の異なる特許が上位に出ている。プログラムによる制御の代用や併用が可能かもしれない。

表4は、「消費電力削減」だけで概念検索したものである。コンピュータにおいてCPUのクロックサイクルを低下させて低消費電力を実現する具体策が述べられている。新しいテレビで役に立つ情報を含んでいるかもしれない。

このように、目的の情報に近いものを探すと共に、意図的に異なる分野の情報を探すこともアイデア発想支援としては有益である。

### (2) 漏れのある検索でも役立つ

長時間かけて専門サーチャが行なった検索や調査に比べると、エンドユーザが簡単に行なった概念検索は漏れがありうる。しかし、アイデア発想支援ツールとして利用する場合、これは大きな障害にならない。研究開発においては、適切なアイデア発想のために長時間が費やされる。これに対して、概念検索に要する時間はわずか1時間程度である。したがって再現率が5割であったとしても、かけた時間に対してその果たす役割は十分大きいと考えられる。

### (3) 急速に進む分野でも役立つか？

技術の進展は均一なものではなく、偏っている。現在、ITやバイオ技術の一部においては日進月歩で驚くような技術革新が続いている。確かにそのような状況の技術においては、2年近く前に出願された特許情報では遅いということになる。したがって当然のことであるが、特許情報だけに頼ることは危険である。時間と費用の許す限り国内外の学会に出席し情報収集するのがよい。しかし、最先端の技術も全ての局面で必ずしも日進月歩ではないであろう。また、その他の多くの技術では、多くの部分において数年前の技術も十分役立つことが期待できる。

### (4) 人の後追いではないか？

他人の特許など見て「人の後追いばかりやってもダメ」という意見がある。確かに、先行アイデアと全く同じものではない。しかし、世の中をひっくり返すほどの新しい発想も無から生まれるものではない。アイデアは既存の情報の組合せであり、過去の専門知識の習得・蓄積の必要性は、ノーベル賞受賞者を含む多くの人の指摘するところである。

コペルニクスの地動説も、彼の独創ではなくフィチーノの理論が元<sup>1)</sup>になっている。数学者ガロアさえも前の科学者たちの業績に導かれる、と言っている。意見交換により他人の考えを知ることが、研究開発において極めて重要なことからのようである。特に他社など異なった環境にいる人の意見は、日常と違った角度からの見方であり刺激になるという意見がある。

### (5) アイデア発想法はたくさんあるが？

アイデア発想のための様々な手法がある。しかし、それらの多くは、面倒なステップを踏む必要がある。ところが、考えることに使われる人間の短期記憶メモリの容量は限られており、手法にとらわれていては良いアイデアは浮かばないとの主張<sup>1)</sup>がある。確かに、〇〇法など著名な手法の導入直後にはそれによって効果的なアイデアが生まれたとの報告があるが、長続きしているものが少ない。これに対し、特許情報をアイデア発想に利用することは、特許制度の存在理由でもあり、紙の時代から利用されてきたものであり、実証済みである。

### (6) 固定料金制の優位性

アイデアの発想には、他のことに煩わされず、対象技術に没頭することが重要といわれる。検索式不要の概念検索はこの点で非常に優れているが、さらに料金を気にしないで利用できればさらに有益である。料金を気にしないシステムにするには、次の方式がありうる。

①公共機関の無料サービス…様々な限界があるので、それを乗り越えるシステムの実現には

時間がかかるであろう。

の準備時間はゼロに近く、操作は簡単で、さら

②商用データベースの固定料金での利用・・・完全固定料金の商用データベースは難しそうに思えるが、外国には Micro Patent 社の Patent Web などが既に存在する。

③社内データベース・・・ユーザの組織でコストを負担できるならばできる。すでに社内システムがある場合には、更新の機会にハードの低価格化を利用して構築するのはうまい方法である。

(7) 本当に役立つか？

特許情報を概念検索で利用することが、アイデア発想支援にどのように役立つか、社内の研究開発者にアンケートを行なった。実施時期は 2002 年 11 月であり、多くの方は概念検索を利用開始して数ヶ月の状況である。図 3 はこの結果の一部である。全回答 67 名中、利用したことのある人は 29 名であった。この中でアイデア発想支援として「役立った」とした人が 8 名おり、その中で「明瞭に役立った」とした人が 2 名いた。研究開発に携わる人は回答者数よりはるかに多く、また今後長期間使っていくことを考えると、多くの人に役立つことが期待できる。他人のアイデアが自分の研究開発や特許に役立ったとは言いたくないこともあろうが、役立つ事は事実と考えてよい。

概念検索によるアイデア発想支援は、情報検索の結果を利用するものであり、検索式を使った場合と本質的に異なるわけではない。しかし、実際面において大きな差がある。つまり、事前

に優先順に回答されることにより、アイデア発想支援ツールとしての活用が現実のものになる。  
 ※アイデア発想のためには、課題・目的をもつこと、それを没頭して考えること、適度のリラックス、ヒラメキをメモすることなどが重要といわれる。このようなことは概念検索を利用する場合も重要なことであろう。

図 3 研究開発者への概念検索利用のアンケート

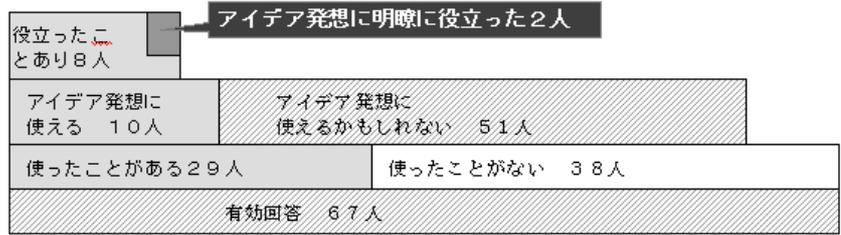


図 4 概念検索による拒絶引例の検索

①は非常に近いので 2 位だが、②はやや異なるために 207 位に出ている。

対象特許 特開平 11-203*** 5 クレーム G07D 9/00 456;421;428 自動取引装置 概念検索の質問文； 自動取引装置の操作に不慣れた係員に対し、 動画・静止画/イラストや音声を使用することで 操作誘導し、障害の対応や操作等を容易に行 えるようにする。	特開平 9-153164 障害の状況に応じた係員の操作を フローチャートおよびイラスト形 式で表示・・・操作に不慣れた係員 であっても障害復旧操作を行える
No. 審査での拒絶引例 概念検索結果 ① 特開平 9-153164 2 位 ② 特開平 9-128458 207 ③ 特開平 6-282726 10 ④ 特開平 5-274529 61	特開平 9-128458 監視センタで障害の原因を分析し、自動取引装置の表示装置上に障害回復の誘導画面を表示し、・・・ユーザを誘導して障害回復を図る。

4. 発明の保護のための利用

発明の保護は、自社発明の権利化が中心であるが、他社権利の侵害防止を加えることもある。また、そのための特許調査は、調査のタイミングと重要性により、数万円の簡単な調査からはるかに高額のものまである。概念検索は、前者においては簡便ないい方法として、また後者においては、予備調査的手段として役立つ。

(1) 出願前調査での利用

開発途中で特許調査や S D I サービスをおこなっている場合、出願前などの公知例調査は簡単に済ませたい場合が多く、このような目的に

概念検索は適している。特に、発明者自身がまとめる段階で先行技術を手軽に見られることは、貴重なマンパワーを無駄にしない点からも有益である。また、特許技術者は、広くて強い権利にまとめようと先行技術を調査する必要があるが、特許調査は不慣れなことが多く概念検索は役に立つ。

実例として、特許庁の審査で引用されている特許が概念検索で取り出せるかどうか検討した。

**実例 1**；図 4 は「自動取引装置の操作に不慣れな係員に対し、動画・静止画／イラストや音声を使用することで操作誘導し、障害の対応や操作等を容易に行えるようにする」ものが、4 件の引例で拒絶された事例である。質問文は、「要約」中の「課題」が上手に書かれていたので、ほぼそのまま使った。引例のうち 1 件目は 2 位に出ており、内容的にも非常に近いものである。2 件目の特許はやや内容の異なるものであり 207 位に出ている。もし、上位 100 件だけ見ていれば、この 2 件目は見つからないことになる。しかし、質問文を変えることで、この特許の順位が上がることも期待できる。

**実例 2**；表 5 は「顧客のクレジットカード番号とは別にネットワーク上でクレジットカードとして認識するためのクレジットカード番号とは異なる ID 番号を用いて取引する」という出願（特開平 11-\*\*\*）が、特開平 8-\*\*\*（および他の文献）の引用で特許庁の審査で拒絶査定を受けている。対象を全文明細書とし、質問文を上記の短文で概念検索した結果、審査引用の公知例である特開平 8-\*\*\*が 10 位に出てきた。また G06 の IPC で限定すると 9 位に出てくる。この特開平 8-\*\*\*は、利用金額に応じたポイント累積カー

表 5 クレジットカード特許の検索（出典；日本 EPI 協議会講演から抜粋）  
A 社システムで検索対象を全文としたとき、審査引用特許は見つかった。  
（×は 50 位までになかったケース、－は実施できなかったケース）

システム 検索対象 質問	A社システム						B社システム			
	全文		クレーム		要約		クレーム		要約	
	元	引用	元	引用	元	引用	元	引用	元	引用
1.主クレーム	1 位	×	1	×	×	×	1	×	×	×
2.全クレーム	1	44	1	×	×	×	1	×	×	×
3.要約	1	39	×	×	1	×	×	×	1	×
4.(1)*G06	1	×	1	×	×	×	1	×	×	×
5.(3)*G06	1	29	×	×	1	×	×	×	1	×
6.(1)*クレジット	1	×	1	×	×	×	-	-	-	-
7.(3)*クレジット	1	38	×	×	1	×	-	-	-	-
8.短文	1	10	×	×	1	×	×	×	1	×
9.短文*G06	1	9	34	×	1	×	×	×	×	×

ドをクレジットカードとしても利用可能にするというもので、技術の中心課題は異なる。しかし、特開平 11-\*\*\*の第 5 クレームには「ポイント算出手段を備えた・・・」との記載があり、また、特開平 8-\*\*\*においては、クレジット使用の可否、クレジット判断手段、クレジット審査中などの表現が多量にある。この結果、類似特許の少ない状況においては、異なる ID 番号を使用するとの明示が無くても類似の概念と判断されて上位に出てきたものと見られる。

なお、これとは別に特開 2002-\*\*\*「クレジットカード番号とは異なる独自番号を関連づけて管理する・・・」が 2 番目に出てきたが、これは新しくて公知例とはならない。

※上記の例は、いつもこのように簡単に妥当な引用特許が見つかることを保証するものではない。

## (2) 他の調査・検索との組み合わせ法

IPC 指定の綿密な調査やキーワードの検索式による検索と、概念検索による調査を組み合わせることで、再現率の向上が期待できる。先に行う方法・・・調査の依頼を受けた時、依頼説明の文章でまず概念検索を行う。依頼内容の理解の一環として位置付けるのもいい方法。後で行う方法・・・調査が終りかけた時点で概念検索を行なう。依頼内容の中心課題の理解が進んでいるので、質問文の作成がやり易い。再

確認のつもりで行なう。

### (3) 概念検索だけでは漏れるのではないか？

アイデア発想支援的な利用とくればると、発明の保護のための利用ではやや高い再現率が求められる。調査・検索の経験豊富な人が時間をかけ、さらに手めくり調査や検索式を組合わせた調査は再現率が高い。概念検索だけで十分ということはない。

しかし、出願費用に占める調査費用の割合は発明の重要性に応じて限界がある。したがって、概念検索も現実的な手段の一つといえる。

## 5. 権利活用での利用

自社特許と類似の技術を実施している企業を探し、自社の発明を実施してもらい、その見返

りとして妥当な対価を得る活動を特許権の活用とする。その収入は次の発明活動にリサイクルされ、産業の発展に役立つ。特許権は、自社で利用するだけでなく他社に上手に利用してもらうことで一層、産業の発展、ひいては人類の福祉に貢献する。

### (1) 類似技術を実施している企業の発見

これには、その企業の発する様々の情報を分析することが有益である。そして、その一つに特許情報の利用があり、様々な特許調査の手法の1つとして概念検索がある。権利活用前の有効性の確認のための綿密な調査に際しては、概念検索は予備的な調査手段として役立つ。

プロパテント化の喧伝により発明者も自分の権利の有効活用に興味をもってきている。この

図5 検索結果のマップ表示による内容の理解

(この画面の著作権は株式会社日立製作所に帰属します)

件数表の件数部分をクリックするとその抄録がほぼ瞬時に表示され、[全文]をクリックすると明細書を表示させられる。

The screenshot displays a patent search results page. At the top, a table titled 'SGPAT統計データ, 出願年-発行年' shows the number of patents filed and issued from 1993 to 2003 for various companies. A 3D bar chart to the right visualizes this data. Below the table, a detailed patent record is shown for '特開平9-114514 平成9年5月2日 特願平7-268422 平成7年10月17日 ソニー株式会社 <藤川 孝><藤田 雅博> G05B 19/4155;B25J 13/00;G05B 13/02; ロボット制御方法およびその装置'. The record includes a summary, a detailed description of the invention, and a list of claims. A navigation menu at the bottom right allows users to view the full text, previous/next records, and other related information.

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
ソニー	0	1	0	2	2	11	24	96	93	33	
本田技研工業	34	10	3	1	3	12	8	5	8	22	5
三菱重工業	2	4	3	1	1	5	4	1	0	2	0
工業技術院長	0	1	2	0	0	2	1	0	2	0	0
科学技術振興	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	1

ようなとき、概念検索は発明者自身が簡単に利用できるのので有益である。

なお、類似特許があった場合、本当にその出願人が実施できそうか（または、実施しているか）どうか判断するには、いくつかの観点がある。その中の一つに継続して出願されているならば実施できる（実施している）確度が高いという見方がある。

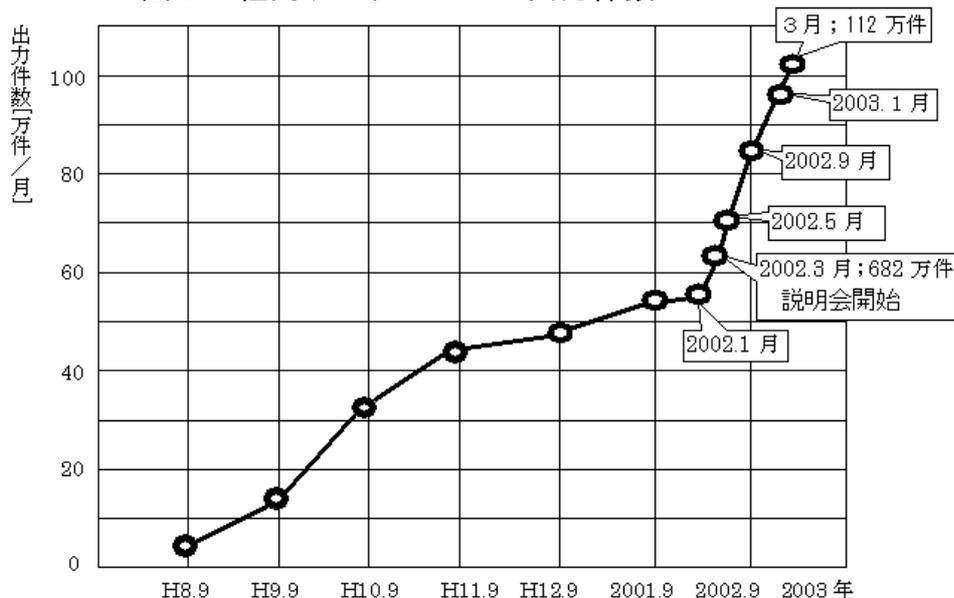
図5は、ある技術の特許の分析マップとその発展利用である。これは検索結果から簡単に件数表やそのグラフを作成でき、さらに番号をクリックすると該当の（複数の）抄録が、データベースから数秒で表示され、さらに[全文]をクリックすると明細書が数秒で表示されるようになっている。この重要な点は、時系列のマップからその抄録や明細書をほぼ瞬時に表示させられる機能である。このような支援ツールの利用により、類似技術を実施できるかどうかの推定を名人芸的でなく手順化して実施することが可能になる。

### (2) 特許係争対策の調査に使えるか？

概念検索は（明細書を対象とするシステムであれば）明細書の片隅に書いてある事項の検索も可能であり、特許係争対策用にも有益と考える。ただし、IPC指定での綿密な調査や検索式による徹底した検索とくらべると再現率には差があり、別の角度から簡単に検索できるという予備的、補完的手段のひとつとして役立つものとする。

### (3) 概念検索と他のやりかたの使い分け

図6 社内データベースの出力件数



概念検索は、優先順位を付けて回答されるので、利用し難い場合がある。例えば、ある技術の全特許をピックアップし、企業別とか細分類した技術による動向を分析する場合などは、優先順位の回答よりも、通常の実行年順の回答が都合のいいことが多い。

また、キーワードによる検索が難しい場合には、IPC別の紙資料ファイルや、IPCによる大量の検索結果を目で見て調査する事もある。

## 6. 重要なユーザ教育

概念検索の利用は簡単であるが、利用者への説明は重要である。利用法が簡単であるから、案内を送るだけで利用してもらえそうだが、筆者の経験ではそうならなかった。

図6は、社内システムの出力件数の推移である。2002年2月までは、操作が簡単ということで説明会をしなかった。ところが、3月以降、一年にわたり30数回の社内説明会をおこなったところ、特に研究開発部門で利用が急増、前年の約2倍増の出力がなされるに至った。

概念検索を使ってみた人の意見には「こんなに簡単にうまくできるとは思わなかった」、「一回やってダメだったので使っていなかったが、

質問文のコツが分かった」，「50件くらいはアツという間に見られる」というものが多い。これに対して、使わない人は、いわゆる「食わず嫌い」で、概念検索の内容を自分の想像で解釈して誤解していることが多い。例えば、クレームで検索できないからダメだ，特許番号を与えて近いものを探せないからダメだ，質問文の作成が初心者には難しいからダメだ，また，ラフな質問文で検索し，結果の評価は細部まで限定して該当のものが出てこないという人もいる。さらに，文脈を理解できないからダメだという意見もときどき耳にする。

しかし，使い込んだ人の多くは，使いやすさと成果の大きさに驚嘆の声を上げる。説明会などでそのようなことに何度も出会った。

## 7. おわりに

特許情報を概念検索で利用することにより，研究開発者のアイデア発想支援や，発明の保護，特許権の活用利用に利用できる。上手に使う方法の習得には1，2時間かかる。しかし，それでほぼ概念検索を使いこなすことができる。結果の有益性を考えれば十分メリットがあるという認識が社内に広がっていると考えている。

特許情報は秘密がなく，分かり易く書かれており，多様な利用に適した情報源である。年に

一，二度の特許出願前の調査だけではなく，日常的なアイデア発想の相談相手として利用することが可能である。

情報ニーズを顕在化させて，具体的な利用促進を計画していくことが望まれている。例えば，最近は大学でも知的財産への関心が高くなっているが，特許情報をアイデア発想支援の情報源として利用することにも目を向けてほしい。

現代は驚くべき高性能コンピュータが安価に手に入る。一方，人件費は高い。したがって，システムに高度な処理をさせることで，簡単に自分の欲しいものだけをピンポイント的に取り出し，それを知的活動に生かすことが望まれる。概念検索による特許情報の利用は，このような時代の要請にあったものといえる。

現時点の概念検索はまだ完璧ではない。しかし，人間とコンピュータがそれぞれ得意な領域で力を出し合うことで，特許情報のもつメリットを引き出すことができれば素晴らしいことである。

参考文献；

- 1) 「超」発想法，野口悠紀雄，講談社